

フィリピンで公衆衛生を学ぶ 行先: マニラ・フィリピン 期間: 2015年8月10日-14日

引率: 保健栄養学教室 北 潔 教授
横田 幸恵

渡航先での活動内容

- 世界保健機関西太平洋地域事務局(WPRO)での研修
- 西太平洋地域における公衆衛生問題についての講義の聴講
- WPRO職員の方々との面談



WPRO外観



会議室内の様子



講義の様子

- サンラザロ病院の視察



サンラザロ病院外観



病院の外の街の様子



Animal bite 外来の様子



Animal bite 外来でのワクチン接種



院内で結核患者を搬送する救急車



ER内のレントゲン



結核病棟



狂犬病患者の病室



長崎大学-SLH共同研究室

- フィリピン大学公衆衛生学科の視察
- 熱帯医学研究所(RITM)の視察
- 22nd Philippine Coalition Against Tuberculosis (PhilCAT) Annual Convention への参加



フィリピン大学の実験室の様子



RITM外観



PhilCAT会場の様子

目的を達成できたか

途上国の実情、国際機関の現場を自分の目で見るという目的については、5日間という短期間の滞在ではあったものの、初めて目にするもの、日本との違いに驚くことなどが多々あり、非常に良い経験になったと感じている。過去にアメリカ、ヨーロッパ等のいわゆる先進国を訪れたことはあったが、今回は空港を出た直後に、海外に来たのだという今までにない実感を得られたことも印象に残っている。

WPROでの講義や多くの方々との面談を通して、これまで考えたことのないような問題、知識として知ってはいても想像できなかったような問題にも触れることができた。勉強したり考えたりする様々なきっかけをいただいたので、今後に生かしていきたいと感じている。

グローバルな視点とは何か

WPROで西太平洋地域各国の研修生の方々と講義を受け、議論していく中で、自分がいかに日本のことを知らないか、知ろうとしてこなかったかを実感した。これまでは海外に目を向けることしか考えてこなかったが、自国を十分に知った上で、他国のことも知り、ある一つの見方に偏ることなく各国の制度や状況などを冷静に見極めることが必要だと感じた。

また反省点とも重なるが、知識や考え方が独りよがりなものになってしまっは意味がないので、自分とは異なる価値観を持つ人たちと意見を交わすことが重要だと感じた。

将来の進路決定へどう影響したか

WPROでお話を聞かせていただいた日本人の方々の多くが大学院在学中あるいは卒業後に海外での就学や国際支援活動を経験されており、そのようなお話を伺ううちに、私自身も何らかの形で海外で活動したいという気持ちが強まった。また、サンラザロ病院ではマニラにおける医療の現状を垣間見、現場で医師、研究者として働かれている方にお話を伺う中で、患者さんと直接関わりながら治療に携わっていくことの面白さと怖さを感じ、漠然と医療現場で働きたいと思うようになった。

マニラでの活動とは直接の関係はないが、帰国後、1月に解剖示説を受講し、医学科の5年生の方々と一緒に乳がんで亡くなられたご遺体を解剖させていただく機会を得た。実習を通して、たった2万2千程度の遺伝子から構築された人体の複雑で精緻な構造、そしてそのご遺体が数十年間の人生を歩まれてきた一人の人間を支え、逆にご遺体はその人生によって個性を与えられたものだという不思議さを感じ、医学への興味が一層強まった。マニラでの研修と解剖示説を経て、現在は大学卒業後の医学科編入を目指したいと考えている。医師としてどのような形で働くかは、編入後にいろいろな現場を見て決めていきたいと考えている。

目的以外に学んだ点、反省点

講義中や面談の際に自分から積極的に質問できなかったこと、他の研修生との議論でも聞き手に回りがちであったことが一番の反省点である。今後は自分自身のフィールドでは自信を持って議論できるような知識、経験を身につけると同時に、たとえ自分の語学力や知識に自信がなくても、積極的に議論に加わり、わからないことは素直に尋ねるようにしたいと思った。

また、今回の研修中に、私自身の社会人としての経験(インターン、アルバイトなど)のなさを指摘されることがあった。進学後にはインターンや国内外での研修など、様々な経験を積みみたいと考えている。

後輩へのアドバイス

学部学生が利用できる海外研修支援制度はそれほど多くないと思うので、このような機会を積極的に利用してほしい。

研修支援制度に望むこと

研修支援プログラムの参加者募集時点で航空券等の予約の際に指定業者を通して行う必要があることを周知していただければ、より正確な予算を算出でき、その後の手続き等も迅速に行えるのではないかと感じた。この制度を今後も長く存続させていただければと思う。